

第104期定時株主総会  
その他の電子提供措置事項  
(交付書面省略事項)

連結株主資本等変動計算書  
連結注記表  
株主資本等変動計算書  
個別注記表

株式会社富士通ゼネラル

上記の事項につきましては、法令および当社定款第17条の規定に基づき、書面交付請求をされた株主様に交付する書面への記載を省略しております。

# 連結株主資本等変動計算書

(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
<b>当期首残高</b>	<b>18,124</b>	<b>35</b>	<b>104,660</b>	<b>△5,023</b>	<b>117,797</b>
<b>当期変動額</b>					
新株の発行	47	47			95
剰余金の配当			△3,454		△3,454
親会社株主に帰属する 当期純利益			8,694		8,694
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期 変動額(純額)					
<b>当期変動額合計</b>	<b>47</b>	<b>47</b>	<b>5,239</b>	<b>△0</b>	<b>5,334</b>
<b>当期末残高</b>	<b>18,172</b>	<b>82</b>	<b>109,900</b>	<b>△5,024</b>	<b>123,131</b>

	その他の包括利益累計額					非支配株主 持分	純資産 合計
	その他有価 証券評価差 額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整累 計額	その他の包 括利益累計 額合計		
<b>当期首残高</b>	<b>768</b>	<b>4,759</b>	<b>3,079</b>	<b>△230</b>	<b>8,376</b>	<b>5,281</b>	<b>131,454</b>
<b>当期変動額</b>							
新株の発行							95
剰余金の配当							△3,454
親会社株主に帰属する 当期純利益							8,694
自己株式の取得							△0
株主資本以外の項目の当期 変動額(純額)	△64	-	1,791	37	1,764	1,016	2,781
<b>当期変動額合計</b>	<b>△64</b>	<b>-</b>	<b>1,791</b>	<b>37</b>	<b>1,764</b>	<b>1,016</b>	<b>8,115</b>
<b>当期末残高</b>	<b>704</b>	<b>4,759</b>	<b>4,870</b>	<b>△193</b>	<b>10,140</b>	<b>6,298</b>	<b>139,570</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 連 結 注 記 表

(連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

## 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 39 社

主要な連結子会社の名称

Fujitsu General (Thailand) Co.,Ltd.、FGA (Thailand) Co.,Ltd.、  
Fujitsu General Air Conditioning R&D (Thailand) Co.,Ltd.、  
富士通将軍(上海)有限公司、富士通将軍中央空調(無錫)有限公司、  
江蘇富天江電子電器有限公司、FGAHP、エアロシールド(株)、  
Fujitsu General America, Inc.、Fujitsu General do Brasil Ltda.、  
Fujitsu General Air Conditioning (UK) Ltd.、Fujitsu General (Euro) GmbH、  
Fujitsu General (Italia) S.p.A.、Fujitsu General (Middle East) Fze、  
Fujitsu General (Asia) Pte. Ltd.、Fujitsu General (India) Private Ltd.、  
ABS Fujitsu General Private Ltd.、Fujitsu General (Aust.) Pty Ltd.、  
Precise Air Group (Holdings) Pty Ltd.、Fujitsu General New Zealand Ltd.、  
富士通将軍商貿(上海)有限公司、Fujitsu General (Taiwan) Co.,Ltd.、  
(株)富士通ゼネラルエレクトロニクス、(株)富士通ゼネラルOSテクノロジー、  
(株)富士エコサイクル、(株)富士通ゼネラルイーエムシー研究所

当連結会計年度の連結範囲の異動は、増加1社で以下のとおりであります。  
新規設立により増加した会社・・・1社

## 2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数及び主要な会社等の名称

持分法を適用した関連会社の数 3社

主要な会社等の名称

TCFG Compressor (Thailand) Co., Ltd.、ETA General Private Ltd.

(2) 持分法を適用しない関連会社の名称等

会社の名称 (株)アールステーション

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない関連会社は、当期純利益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 持分法の適用の手続について特に記載すべき事項

持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る計算書類を使用しております。

## 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、エアロシールド(株)の決算日は9月30日であり、富士通将軍(上海)有限公司、富士通将軍中央空調(無錫)有限公司、江蘇富天江電子電器有限公司、FGAHP、Fujitsu General (Italia) S.p.A.及び富士通将軍商貿(上海)有限公司他1社の決算日は12月31日であります。連結計算書類は連結決算日現在で実施した仮決算に基づく計算書類により作成しております。その他の連結子会社の決算日は、連結決算日と同一であります。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### ① 有価証券

###### その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

###### ② デリバティブ取引

時価法を採用しております。

###### ③ 棚卸資産

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。ただし、一部の在外連結子会社は先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### ① 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 10～50年

機械及び装置 5～12年

###### ② 無形固定資産(リース資産を除く)

主として定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

自社利用のソフトウェア 5～10年

顧客関連資産 15年

技術資産 6年

のれん 5～20年

###### ③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

##### (3) 重要な引当金の計上基準

###### ① 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

###### ② 製品保証引当金

販売した製品の無償アフターサービス費用に備えるため、経験率及び個別見積りに基づき計上しております。

###### ③ 海外事業等再編引当金

空調機事業強化に向けた各地域の販売体制強化・再構築に係る費用等を合理的に算定し計上しております。

###### ④ 独禁法関連引当金

独占禁止法に基づく排除措置命令及び課徴金納付命令に関連して発生する可能性のある損失に備えるため、損失見込額を合理的に算定し計上しております。

##### (4) 重要な収益及び費用の計上基準

製品の販売については、通常、製品の引渡時点において顧客が製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断していることから、製品の引渡時点において収益を認識しております。取引価格の算定にあたっては、顧客との契約において約束された対価から、販売手数料等を控除した金額で算定しております。

工事契約については、一定の要件を満たす場合、履行義務の充足に係る進捗度に基づき収益を認識しております。進捗度の測定は、各報告期間の期末日までに発生した工事原価が、予想される工事原価の合計に占める割合に基づいて行っております。なお、進捗度を合理的に見積ることができない場合は、原価回収基準により収益を認識しております。

保守契約については、履行義務の充足につれて顧客が便益を享受すると考えられることから、一定期間にわたり収益を認識しております。

これらの履行義務に対する対価は、履行義務の充足時点から概ね1年以内に受領しており、重要な金融要素は含んでおりません。

(5) その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

① 重要なヘッジ会計の処理

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、金利スワップについては特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。

② 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、必要額を計上しております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、主として各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結計算書類にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは次のとおりです。

1. のれんの評価

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額 3,757百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループは、各連結会計年度において、減損の兆候の有無を把握し、減損の兆候があると判断したのれんについては、経営者が承認した将来事業計画の割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回った場合に減損損失を認識しております。

減損損失の測定に使用する回収可能価額は、同様に経営者が承認した将来事業計画を基礎とした将来見積キャッシュ・フロー等に基づき算定しております。

これらに使用する事業計画等の仮定は、使用する時点において入手可能な情報に基づく最善の見積りと判断により策定しておりますが、将来の事業環境の変化等の影響により見直しが必要となった場合には、減損損失が発生し、翌連結会計年度の連結計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

当連結会計年度において、当社連結子会社であるエアロシールド株式会社に係るのれんについて株式取得時の事業計画において想定していた収益が見込めなくなったことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額1,313百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

2. 独禁法関連引当金

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額 7,943百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社は、2017年2月、消防救急無線のデジタル化に係る商品または役務に関し、公正取引委員会から独占禁止法に基づく排除措置命令及び課徴金納付命令を受けましたが、各命令の内容には、事実認定と法解釈において会社と公正取引委員会との間で見解の相違があることから、同年8月、各命令に対する取消訴訟を提起しました。2022年3月に第一審判決がありました。同月控訴し現在訴訟手続が継続中であります。

独禁法関連引当金は、本件に関して将来発生の可能性が高い支払いに備えるため、顧問弁護士等の見解を踏まえて、当社が現在入手可能な情報に基づき、合理的な金額を見積り引当金を計上しておりますが、今後の裁判の進展などにより見直しが必要となった場合には、翌連結会計年度の連結計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

(会計上の見積りの変更に関する注記)

当社及び一部の国内連結子会社は、従来、退職給付に係る負債の数理計算上の差異の費用処理年数を、従業員の平均残存勤務期間以内の年数である14年としておりましたが、平均残存勤務期間が短縮したため、当連結会計年度より費用処理年数を13年に変更しております。

なお、当該変更による当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

(連結貸借対照表に関する注記)

土地の再評価

「土地の再評価に関する法律」(1998年3月31日公布 法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(2001年3月31日公布 法律第19号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、この評価差額のうち当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(1998年3月31日公布 政令第119号)第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日 2002年3月31日

再評価を行った土地の期末における

時価と再評価後の帳簿価額との差額 △709百万円

(連結損益計算書に関する注記)

1. 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額 68百万円

2. 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

種類	用途	金額(百万円)
のれん	その他	1,313
技術資産	事業用資産	189

当社グループは、事業セグメントを主な基準として、独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位で資産をグルーピングしております。

当社連結子会社であるエアロシールド株式会社に係るのれん及び技術資産において、株式取得時の事業計画において想定していた収益が見込めなくなったことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該資産の回収可能価額は将来の事業計画を基礎とした使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを22.7%で割り引いて算定しております。

3. 新型コロナウイルス感染症による操業停止に伴う損失

中国における新型コロナウイルス感染拡大防止を背景とした地方政府等からの直接の要請等により、当社グループの連結子会社が工場操業停止を行った期間中の固定費および臨時的に発生した関連費用を特別損失に計上しております。

4. 独禁法関連引当金繰入額

独占禁止法に基づく排除措置命令及び課徴金納付命令に関連して発生する可能性のある損失に備えるため、損失見込額を合理的に算定し特別損失に計上しております。

## 5. ロシア関連損失

当社グループは、代理店を通してロシア国内へ販売を行っていましたが、ウクライナ侵攻により取引を一時停止しております。それに伴い、当社グループが保有するロシア向け債権が長期滞留しているため、当該債権に対する回収懸念額をロシア関連損失として特別損失に計上しております。

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

### 1. 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数

普通株式 109,339,548 株

### 2. 配当に関する事項

#### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月16日 定時株主総会	普通株式	1,674	16	2022年3月31日	2022年6月17日
2022年10月26日 取締役会	普通株式	1,780	17	2022年9月30日	2022年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの次のとおり、決議を予定しております。

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,780	利益剰余金	17	2023年3月31日	2023年6月29日



(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、手元資金を安全性の高い銀行預金等の金融資産にて運用することとしております。資金調達については、市場環境及び当社グループの財務状況等を総合的に勘案し、銀行借入や社債等の調達手段により、適宜、最適と判断する手段にて調達する方針としております。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機及びトレーディング目的では行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びに管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクが存在しますが、当社グループの与信管理規程に従い取引先ごとの期日及び残高を管理するとともに、主要な取引先の財務状況等を定期的にモニタリングし、回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクが存在しますが、原則として通貨別に営業債務とネットしたポジションについて、必要に応じ先物為替予約を利用してヘッジしており、これらは当社財務経理部門で一元管理しております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式等であり、市場変動リスク等が存在しますが、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。また、当社グループは、外貨建ての営業債務を保有しており、為替の変動リスクが存在しますが、前述の営業債権と同様の手法にて、リスクをヘッジしております。

短期借入金及び長期借入金は、営業取引並びに設備投資に係る資金調達であり、金利の変動リスクが存在しますが、必要に応じ固定金利取引及び金利スワップ取引を利用してヘッジしております。

また、営業債務や短期借入金は、資金調達に係る流動性リスクが存在しますが、当社グループでは、各社が月次単位の資金繰計画に基づき管理を行っております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務等に係る為替変動リスクに対するヘッジ目的の先物為替予約取引、並びに借入金に係る金利変動リスクに対するヘッジ目的の金利スワップ取引であります。なお、重要なヘッジ会計の処理については、前述の(5)その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項①重要なヘッジ会計の処理をご参照下さい。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価算定においては、変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。



## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2023年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等（連結貸借対照表計上額 3,919万円）は、「その他有価証券」には含めておりません。また、「現金及び預金」、「受取手形、売掛金及び契約資産」、「支払手形及び買掛金」及び「短期借入金」は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額 (*)	時価 (*)	差額
(1) 投資有価証券			
その他有価証券	2,464	2,464	—
(2) デリバティブ取引	(29)	(29)	—

(\*) 負債に計上されているものについては、( ) で示しております。

## 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

(単位:百万円)

区分	時価 (*)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	2,458	—	—	2,458
投資信託	5	—	—	5
デリバティブ取引	—	(29)	—	(29)

(\*) 負債に計上されているものについては、( ) で示しております。

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

### 投資有価証券

上場株式及び投資信託は相場価格を用いて評価しており、活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

### デリバティブ取引

為替予約の時価は、取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(収益認識に関する注記)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループは、売上高を顧客の所在地を基礎とした国又は地域に分解しております。分解した地域別の売上高と報告セグメントとの関係は以下の通りです。

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	空調機	情報通信・ 電子デバイス	計		
日本	44,623	27,018	71,641	2,640	74,282
米州	67,489	39	67,529	—	67,529
欧州	90,145	159	90,305	—	90,305
中東・アフリカ	45,283	—	45,283	—	45,283
オセアニア	35,189	—	35,189	—	35,189
アジア	36,258	367	36,625	—	36,625
中華圏	19,448	2,354	21,802	—	21,802
外部顧客への売上高	338,439	29,938	368,378	2,640	371,019

(注) リース取引に係る収益は、重要性が乏しいため、売上高に含めて表示しております。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「(連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等) 4. 会計方針に関する事項 (4) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

3. 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：百万円)

	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権 (期首残高)	79,244
顧客との契約から生じた債権 (期末残高)	105,000
契約資産 (期首残高)	3,906
契約資産 (期末残高)	2,103
契約負債 (期首残高)	3,059
契約負債 (期末残高)	1,862

契約資産は工事契約から生じる未請求の債権であり、支払に対する権利が無条件になった時点で債権へ振り替えられます。契約負債は契約に基づく履行に先立ち受領した対価であり、収益の認識に伴い取り崩されます。

当連結会計年度に認識された収益のうち、期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、2,226百万円です。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の便法を適用し、当初に予想される契約期間が1年以内の契約及び提供したサービスの時間等に基づき固定額を請求する契約等について注記の対象に含めておりません。残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

なお、当該履行義務のうち51%は「情報通信・電子デバイス」セグメントに関するものであります。

(単位：百万円)

	当連結会計年度
1年以内	7,188
1年超2年以内	2,222
2年超3年以内	656
3年超	262
合計	10,330

(1 株当たり情報に関する注記)

1 株当たり純資産額

1,272円80銭

1 株当たり当期純利益

83円04銭

# 株主資本等変動計算書

(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
<b>当期首残高</b>	<b>18,124</b>	<b>564</b>	<b>24</b>	<b>588</b>	<b>2,591</b>	<b>88,520</b>	<b>91,112</b>	<b>△5,023</b>	<b>104,801</b>
<b>当期変動額</b>									
新株の発行	47	47		47					95
剰余金の配当					345	△3,800	△3,454		△3,454
当期純利益						9,952	9,952		9,952
自己株式の取得								△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
<b>当期変動額合計</b>	<b>47</b>	<b>47</b>	<b>-</b>	<b>47</b>	<b>345</b>	<b>6,152</b>	<b>6,497</b>	<b>△0</b>	<b>6,592</b>
<b>当期末残高</b>	<b>18,172</b>	<b>612</b>	<b>24</b>	<b>636</b>	<b>2,937</b>	<b>94,672</b>	<b>97,609</b>	<b>△5,024</b>	<b>111,394</b>

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
<b>当期首残高</b>	<b>672</b>	<b>4,759</b>	<b>5,431</b>	<b>110,233</b>
<b>当期変動額</b>				
新株の発行				95
剰余金の配当				△3,454
当期純利益				9,952
自己株式の取得				△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	23	-	23	23
<b>当期変動額合計</b>	<b>23</b>	<b>-</b>	<b>23</b>	<b>6,615</b>
<b>当期末残高</b>	<b>696</b>	<b>4,759</b>	<b>5,455</b>	<b>116,849</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 個 別 注 記 表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

## 1. 資産の評価基準及び評価方法

### (1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

### (2) デリバティブ取引

時価法を採用しております。

### (3) 棚卸資産

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

## 2. 固定資産の減価償却の方法

### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 10～50年

機械及び装置 5～7年

### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

主として定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5～10年)に基づいております。

### (3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

## 3. 引当金の計上基準

### (1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

### (2) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

### (3) 製品保証引当金

販売した製品の無償アフターサービス費用に備えるため、経験率及び個別見積りに基づき計上しております。

### (4) 工事損失引当金

受注工事の損失に備えるため、当事業年度末の未引渡工事のうち、損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、翌事業年度以降の損失見込額を計上しております。

### (5) 独占禁法関連引当金

独占禁止法に基づく排除措置命令及び課徴金納付命令に関連して発生する可能性のある損失に備えるため、損失見込額を合理的に算定し計上しております。

### (6) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、必要額を計上しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(7) 環境対策引当金

ポリ塩化ビフェニル（PCB）の撤去、処分等に関する支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

製品の販売については、通常、製品の引渡時点において顧客が製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断していることから、製品の引渡時点において収益を認識しております。取引価格の算定にあたっては、顧客との契約において約束された対価から、販売手数料等を控除した金額で算定しております。

工事契約については、一定の要件を満たす場合、履行義務の充足に係る進捗度に基づき収益を認識しております。進捗度の測定は、各報告期間の期末日までに発生した工事原価が、予想される工事原価の合計に占める割合に基づいて行っております。なお、進捗度を合理的に見積ることができない場合は、原価回収基準により収益を認識しております。

保守契約については、履行義務の充足につれて顧客が便益を享受すると考えられることから、一定期間にわたり収益を認識しております。

これらの履行義務に対する対価は、履行義務の充足時点から概ね1年以内に受領しており、重要な金融要素は含んでおりません。

なお、当社が代理人として商品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識しております。

5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の処理

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、金利スワップについては特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。

(2) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の貸借対照表における取扱いが連結貸借対照表と異なっております。

(会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは次のとおりです。

1. 関係会社株式及び関係会社出資金の評価

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

38,870百万円

(2) その他の情報

当社は、関係会社株式及び関係会社出資金について実質価額と取得原価とを比較し、実質価額が取得原価に比べて50%以上低下している場合、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられない限り減損処理をしております。

実質価額は、各関係会社の財務諸表を基礎とした純資産額、もしくは純資産額に買収時において認識した超過収益力を反映させたものを使用しており、超過収益力には、経営者が承認した将来事業計画等の仮定を使用しております。

事業計画等の仮定は、使用する時点において入手可能な情報に基づく最善の見積りと判断により策定しておりますが、将来の事業環境の変化等の影響により見直しが必要となった場合には、減損損失が発生し、翌事業年度の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

当事業年度において、当社が保有する関係会社株式のうち、エアロシールド株式会社については、株式取得時の事業計画において想定していた収益が見込めなくなったため、実質価額に著しい低下が認められたことから、当該減少額2,023百万円を関係会社株式評価損として特別損失に計上しております。

## 2. 独禁法関連引当金

- (1) 当事業年度の計算書類に計上した金額 7,943百万円  
(2) その他の情報

当社は、2017年2月、消防救急無線のデジタル化に係る商品または役員に関し、公正取引委員会から独占禁止法に基づく排除措置命令及び課徴金納付命令を受けましたが、各命令の内容には、事実認定と法解釈において会社と公正取引委員会との間で見解の相違があることから、同年8月、各命令に対する取消訴訟を提起しました。2022年3月に第一審判決がありましたが、同月控訴し現在訴訟手続が継続中でありま。

独禁法関連引当金は、本件に関して将来発生の可能性が高い支払いに備えるため、顧問弁護士等の見解を踏まえて、当社が現在入手可能な情報に基づき、合理的な金額を見積り引当金を計上しておりますが、今後の裁判の進展などにより見直しが必要となった場合には、翌事業年度の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

### (会計上の見積りの変更に関する注記)

当社は、従来、退職給付に係る負債の数理計算上の差異の費用処理年数を、従業員の平均残存勤務期間以内の年数である14年としておりましたが、平均残存勤務期間が短縮したため、当事業年度より費用処理年数を13年に変更しております。

なお、当該変更による当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

### (貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額 17,494百万円
2. 保証債務  
関係会社の銀行借入等に対する保証 12,388百万円
3. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務  
短期金銭債権 104,273百万円  
短期金銭債務 50,034百万円  
長期金銭債務 7百万円

## 4. 土地の再評価

「土地の再評価に関する法律」(1998年3月31日公布 法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(2001年3月31日公布 法律第19号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、この評価差額のうち当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(1998年3月31日公布 政令第119号)第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日 2002年3月31日  
再評価を行った土地の期末における  
時価と再評価後の帳簿価額との差額  $\Delta$ 709百万円



(損益計算書に関する注記)

1. 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額	68 百万円
2. 関係会社との取引高	
営業取引による取引高	
売上高	175,417 百万円
仕入高	210,599 百万円
営業取引以外の取引による取引高	10,687 百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

当事業年度末日における自己株式の種類及び株式数	
普通株式	4,631,407 株

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

貸倒引当金	2,091 百万円
関係会社株式及び投資有価証券等評価損	1,646 百万円
未払事業税及び事業所税	106 百万円
退職給付引当金	2,679 百万円
未払確定拠出年金移換金	1,622 百万円
その他	2,211 百万円

繰延税金資産小計 10,358 百万円

評価性引当額 △3,929 百万円

繰延税金資産合計 6,429 百万円

(繰延税金負債)

その他有価証券評価差額金	△277 百万円
土地再評価差額金	△2,365 百万円
その他	△36 百万円

繰延税金負債合計 △2,679 百万円

繰延税金資産の純額 3,749 百万円

(関連当事者との取引に関する注記)

1. 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他の関係会社	富士通㈱	(被所有) 直接 44.1	情報通信機器の 受託生産及び販売等 役員の兼任	製品の売上高(注)	413	売掛金	270

上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注) 製品の売上高については、市場価格を勘案し、価格交渉の上、決定しております。

2. 子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	Fujitsu General (Thailand) Co., Ltd.	直接 100.0	製品の仕入先 資金の貸付先 役員の兼任	製品の仕入 高(注) 1	103,642	買掛金	13,378
				資金の貸付 (△は減少) (注) 2	61	短期 貸付金	5,140
				債務保証 (注) 3	9,384	—	—
	富士通将軍(上海) 有限公司	直接 100.0	製品の仕入先 役員の兼任	製品の仕入 高(注) 1	69,043	買掛金	21,908
				受取配当金	2,466	未収入金	2,518
	Fujitsu General America, Inc.	直接 100.0	製品の販売先 役員の兼任	製品の売上 高(注) 4	37,747	売掛金	28,462
				受取配当金	1,378	未収入金	97
	Fujitsu General (Euro) GmbH	直接 100.0	製品の販売先	製品の売上 高(注) 4	55,453	売掛金	20,237
				受取配当金	2,087	—	—
	Fujitsu General (Middle East) Fze	直接 100.0	製品の販売先	製品の売上 高(注) 4	43,673	売掛金	11,096
	Fujitsu General (India) Private Ltd.	直接 100.0	製品の販売先	製品の売上 高(注) 4	5,650	売掛金	5,076
	Fujitsu General (Aust.) Pty Ltd.	直接 100.0	製品の販売先 資金の貸付先 役員の兼任	製品の売上 高(注) 4	12,508	売掛金	4,076
				資金の貸付 (△は減少) (注) 2	2,232	短期 貸付金	2,690
	富士通将軍商貿 (上海)有限公司	直接 100.0	資金の貸付先 役員の兼任	資金の貸付 (△は減少) (注) 2	173	短期 貸付金	7,030
	Fujitsu General (Taiwan) Co.,Ltd.	直接 100.0	製品の販売先 役員の兼任	製品の売上 高(注) 4	4,680	売掛金	2,496
	(株)富士通ゼネラル エレクトロニクス	直接 100.0	製品の仕入先 資金の貸付先 役員の兼任	製品の仕入 高(注) 1	15,094	買掛金	5,052
資金の貸付 (△は減少) (注) 2				4,270	短期 貸付金	5,330	

上記の金額のうち、(株)富士通ゼネラルエレクトロニクスの製品の仕入取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 製品の仕入高については、市場価格を勘案し、価格交渉の上、決定しております。

(注) 2. 資金の貸付は、純増減額を記載しております。また、利率については、市場金利を勘案して合理的に決定しております。

- (注) 3. 銀行借入等について、債務保証を行ったものであります。  
 (注) 4. 製品の売上高については、市場価格を勘案し、価格交渉の上、決定しております。  
 (注) 5. 関係会社への貸倒懸念債権に対し、6,820百万円の貸倒引当金を計上しております。  
 また当事業年度において233百万円の貸倒引当金繰入額を計上しております。

(収益認識に関する注記)

1. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報  
 収益を理解するための基礎となる情報は、「(重要な会計方針に係る事項に関する注記) 4. 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。
2. 当事業年度及び翌事業年度以降の収益の金額を理解するための情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：百万円)

	当事業年度
顧客との契約から生じた債権 (期首残高)	81,608
顧客との契約から生じた債権 (期末残高)	111,352
契約資産 (期首残高)	3,906
契約資産 (期末残高)	1,233
契約負債 (期首残高)	1,381
契約負債 (期末残高)	433

契約資産は工事契約から生じる未請求の債権であり、支払に対する権利が無条件になった時点で債権へ振り替えられます。契約負債は契約に基づく履行に先立ち受領した対価であり、収益の認識に伴い取り崩されます。

当事業年度に認識された収益のうち、期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、726百万円です。

(2) 残存履行義務に分配した取引価格

当社は、残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって実務上の便法を適用し、当初に予想される契約期間が1年以内の契約について注記の対象に含めておりません。残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間は、以下のとおりであります。

なお、当該履行義務は主に「情報通信・電子デバイス」セグメントに関するものであります。

(単位：百万円)

	当事業年度
1年以内	2,813
1年超2年以内	1,584
2年超3年以内	596
3年超	193
合計	5,187

(1株当たり情報に関する注記)

1株当たり純資産額	1,115円95銭
1株当たり当期純利益	95円06銭